

All in English クラスのダイナミクス

東條 加寿子

「英語を学ぶ」のではなく「英語で学ぶ」。これが私たちの大学が追求する教育方法のキャッチフレーズです。大学一年次の英語科目にはGrammarやPhoneticsの他にIntegrated Reading, Integrated Discussion, およびIntegrated Writingが設けられており、特に統合 (Integrated) 英語科目は、平和、価値観と文化、人権、地球規模の問題といったテーマについて英語で学ぶようデザインされています。本小欄は all in Englishで行われる大学の英語授業の省察です。

5月に入るまでに、新入生は all in English クラスの洗礼を受けます。英語ネイティブ教員による英語の授業は、多くの学生が入学する時に「そんな授業が受けられたら・・・」と描いた憧れの授業です。しかし、実際に授業を受け始めると必ずしもうまくいくとは限らないことがわかってきます。授業開始から2週間を経て実施された「英語の授業について」のアンケートで浮かび上がったのは、次のような状況でした。

まず、半数近くの学生が英語の授業に「困難さ」や「不安」を感じていることがわかりました。「英語の授業は理解できない」「先生が使う単語の意味がわからない」「授業のペースについていけない」「先生の話すスピードが速すぎてわからない」といったコメントが数多く寄せられると同時に、「クラスについていけるか不安」「話せるようになるか不安」「たくさんの課題についていけるか不安」「質問したいができない」といった「不安」や「焦り」を表すものも多く見受けられます。一方で、「授業が英語で理解できていることがうれしい・楽しい」「授業についていけている」「自分から積極的に発言できている」「リスニングに手応えがある・自分から聞き取る努力をしている」といった躍動感あふれるポジティブなコメントも見受けられます。

おそらく、ネガティブなコメントとポジティブなコメントは、表裏一体をなしているのでしょう。「～ができない」や「不安」「焦り」は、実は、「このようなことができるようになりたい」という努力目標を設定した証であり、ポジティブなコメントは、設定した努力目標に対する自己評価の結果であると解釈できます。つまり、いずれのコメントも all in English に懸命に取り組む学生たちの姿を浮き彫りにしているのであり、その表れ方はパーソナリティの違いや英語習熟度の違いに依存していると考えられます。

さて、学生の苦勞を目の当たりにしても、教員は授業を英語で行うことを辞めるわけにはいきません。実際、最初は低い理解度に甘んじていたとしても、前期の15週間が終わり、夏休みを経て後期の15週間が終わるころまでには、どの学生も何とか授業についていくことができる技能やスキルを獲得することを経験から知っているからです。とはいえ、教員はアンケート結果を授業

改善に役立てなければなりません。初めは平易な語彙を用いる、繰り返し発話する、ゆっくりと発話する等々、教員にできる具体的改善点は種々あります。実際、アンケート結果から即刻改善すべき具体的な項目が浮かびあがりました。多くの学生が「宿題・課題が聞き取れない」「宿題・課題はこれでいいのか不安」という問題を指摘していましたが、これについては、宿題の内容を口頭で指示するだけでなく、板書したりプリントに明記したりするなど、複数媒体で伝達することによって確実に改善することができます。

大変興味深いことに、「なかなか聞き取れない英語の授業」に何とかついていくために、学生たちが創成した一つの戦略があります。それは、「理解できたクラスメートがみんなに説明する」「理解できたクラスメートに教えてもらう」というやり方です。このことは、「友人と協力できている」「グループワークがうまくいっている」というコメントから読み取ることができます。「必要は発明の母」ならぬ共同戦線による「困難さ」の解消は、今、教育の現場で目指しているアクティブ・ラーニングに他ならないのではないのでしょうか。

このように見えてくると、all in English クラスを貫く上で重要な観点が明らかになってきます。All in English クラスは、1) 学び合いや助け合いというクラスのダイナミクスの中で捉えること（横断的）、同時に、2) 一定の時間的経緯の中で捉えること（縦断的）の二つが重要です。All in English クラスは学びの「過程」に視点を当ててこそ成功が約束されるものであり、目標地点に行きつくための動機を学生たちが維持できるように、教員が展望(perspective)を与えることが鍵になるのではないのでしょうか。

(とうじょう・かずこ 教授/教員養成センター)
